

公益社団法人私立大学情報教育協会
平成 24 年度第 3 回情報教育研究委員会情報専門教育分科会 議事記録

I. 日 時：平成 24 年 6 月 25 日(月)午後 7 時～午後 9 時

II. 場 所：私学会館アルカディア市ヶ谷

III. 参加者：大原主査、須田委員、渡辺委員、西村委員、高田委員、斎藤トバ伊
企業トバ伊：日本アイ・ビー・エム、ネットマークス、日立製作所、ワ・コーポレーション
事務局：井端事務局長、森下主幹、野本

IV. 検討事項

1. 情報通信教育における学士力の考察について

- ・ 到達目標 4 の到達度について見直しをかけることにした。
- ・ コアカリキュラムのイメージの一般レベルに「豊かな社会」を追加することにした。
- ・ 到達度はセキュリティに偏っていた部分もあったが、豊かな社会の実現に向けた内容に変更することにした。特に豊かな社会との関係を理解しやすいように変更を行った。
- ・ 一般レベルでは①は、人との触れ合いなどの言葉を入れて、豊かな社会のあり方と情報通信システムの役割を説明できるレベルとした。②は、安全・安心を入れて、考えることができるレベルとした。③は、情報倫理について判断と行動が出来るレベルに設定した。
- ・ 専門レベルでは学習行動をつけることも検討された。①は、応用機能の提案と技術的要素で裏付け・試行するレベルとした。②は、技術的要素を示すことを変更した、役割を提案できるレベルに設定をした。③は、職業倫理を説明できるから、重要性を思考し、主張できるに現実的なレベルに変更した。
- ・ 今回、到達目標 4 を変更したので、到達目標の 1～3 も合わせて次回見直すことにした。

2. 教育改善モデルについて、情報通信系教育の到達目標 4 で検討

- ・ 到達度として学生が身に付ける能力として、到達度の専門レベル①②を設定した。
- ・ ねらいとしては、豊かな社会の実現にむけた新しい情報通信システムを考察する教育が十分ではなかったことを背景に、多面的な視点から社会に有益な情報通信システムを提案できる総合力を目指すことにした。ライフサイクルという表現はパラダイムシフトに変更した、併せて学士力の表現も調整することにした。
- ・ 授業の仕組みでは、教員連携・ポートフォリオ・eラーニングを整備し、卒業までの期間として、大学連携での PBL 総合科目とする大学間連携・産学官連携のプラットフォームとした。
- ・ 授業に ICT を活用したシナリオは、豊かな社会を構想させたイメージをプラットフォームに提示し、最終的な成果物も掲載することにした。企画はチームとして PBL で検討させることにした。検討は対面やネットあわせた形態とした。
- ・ 授業に ICT を活用した学習内容・方法は、到達度の表現から「人との触れ合い」「生き甲斐」を取り入れ豊かな社会の想定を分かりやすくした。特に振り返りからの発展的な学修にはポートフォリオ、eラーニングを利用し、プラットフォームで外部評価や社会の関心を引き出す内容とした。

3. 教育改善モデルについて、コンテンツ・サービス系教育の到達目標 4 で検討

- ・ 到達度として学生が身に付ける能力として、専門レベル・情報表現の表現領域、コンテンツ・イノベーションを設定した。
- ・ 制作工程に重点が置かれ、豊かな社会を実現するためのコンテンツ・イノベーションに取り組む教育がなされていなかったことをねらいにとりあげた。
- ・ 仕組みでは、業界連携としてコンテンツ・イノベーションの要望を受け、クリエイターの考えから提案を演習として学ぶ形を考えることにした。卒業までの期間で基礎の補完は eラーニングを利用することにした。

V. 今後の予定

- ・ 情報通信系の改善モデルは「到達目標 3」を検討し、コンテンツ・サービス系の改善モデルは「到達目標 4」を継続検討する。
- ・ 学士力の背景及び到達目標の解説と教員の教育力についても併せて検討することにした。
- ・ 次回 9 月 8 日、15 日を予定し、9 月に開催しまとめることにした。